

# 造形表現における色彩イメージに関する研究

小 江 和 樹

(2006年10月18日 受理)

## A Study of Color Image in Art Expression

Oe Kazuki

### 要 約

色彩認知イメージの代表的なイメージとしてあげられる「暖かい—冷たい」、「軽い—重い」、「派手な—地味な」の3つのイメージに関して、1色の場合と2色配色の場合に選択される色彩の傾向を調査し、それぞれのイメージにおいて選択される色彩、色相及びトーンの分布について明らかにした結果、注目すべき事項を見出すことができた。これは、今後の造形表現において色彩イメージの効果的な活用方法を探る上で、重要な要素であると考えられる。

**キーワード：**造形表現，色彩認知イメージ，色相，明度，彩度，トーン

### 1. はじめに

色彩には人の感覚や感情を動かす力があり、色彩を表現していく上で活用されている。そして、色のイメージや連想は、この力によって引き起こされるものである。色彩イメージは、生活経験や環境、文化の違いによって異なってくるものではあるが、大多数の人々に対して共通する色彩イメージも存在している。

色彩イメージを分類すると、色彩認知・情緒のイメージと生活を表すイメージに分けられ、特に前者の中の色彩認知イメージに着目し、その代表的なイメージについて選択される色彩の傾向を明らかにし、造形表現における色彩イメージの効果的な活用方法について考察を進めていきたい。

そこで本研究では、色彩認知イメージの中で、色相に依存する割合が高い「暖かい—冷たい」、明度に依存する割合が高い「軽い—重い」、彩度に依存する割合が高い「派手な—地味な」の3つのイメージを取り上げ、それぞれのイメージにおいて選択される色彩の傾向を調査し、さらに1色（単色）の場合と2色配色の場合で選択される色彩範囲を比較することで、2色配色になった場合、選択される色彩の範囲がどの程度広がるかについても明らかにしたい。

## 2. 研究方法

### (1) 試料

調査に使用した試料は、(財)日本色彩研究所監修の配色カード158aで、その内容は次の通りである。

#### 【有彩色】

トーン名称	記号	色相番号	色数
ビビッド	v	1～24	24
ブライト	b	2～24 (偶数記号のみ)	12
ディープ	dp	2～24 (偶数記号のみ)	12
ライト	lt	2～24 (偶数記号のみ)	12
ソフト	sf	2～24 (偶数記号のみ)	12
ダル	d	2～24 (偶数記号のみ)	12
ダーク	dk	2～24 (偶数記号のみ)	12
パール	p	2～24 (偶数記号のみ)	12
ライトグレイッシュ	ltg	2～24 (偶数記号のみ)	12
グレイッシュ	g	2～24 (偶数記号のみ)	12
ダークグレイッシュ	dkg	2～24 (偶数記号のみ)	12
その他：2:R-4.5-1s, 2:R-4.5-3s, 2:R-4.5-5s, 2:R-4.5-7s, 2:R-4.5-9s			

#### 【無彩色】

トーン名称	記号
ホワイト	W
ライトグレイ	Gy-8.5
ライトグレイ	Gy-7.5
メディアムグレイ	Gy-6.5
メディアムグレイ	Gy-5.5
メディアムグレイ	Gy-4.5
ダークグレイ	Gy-3.5
ダークグレイ	Gy-2.5
ブラック	Bk

### (2) 被験者

被験者は鹿児島大学教育学部美術専修学生32名

### (3) 手続き及び分析方法

被験者に配色カード貼付用紙を配付し、試料の配色カード158aの中から、それぞれのイメージに

該当すると思われる色彩を選択し、用紙に貼り付けていく方法をとった。

選択された色彩について、各イメージの1色（単色）及び2色配色ごとに集計し、選択された色彩の傾向を読み取り考察していく。

### 3. 「暖かい—冷たい」についての結果と考察

#### (1) 「暖かい」

##### ① 1色（単色）

- ・選択色彩 : ビビッド5 (31.3%), ビビッド4 (18.6%), ビビッド6 (15.6%)
- ・色相について  
分布状況 : 2～8  
最大色相 : 5 (31.3%)
- ・トーンについて  
分布状況 : ビビッド, ブライト, ペール, ライト, ディープ  
最大トーン: ビビッド (78.1%)

色相は、赤、橙、黄に分布し、色相番号5は特に高い値(31.3%)を示している。またトーンは、主にビビッド、ブライト、ライト等の明清色調に分布し、全体の78.1%がビビッドに集中している。これらの結果から、色相は、赤よりも少し黄みを帯びた橙で、彩度が高く鮮やかな色の方がより暖かさをイメージしやすいようである。

##### ② 2色配色

- ・選択色彩 : ビビッド5 (20.3%), ビビッド4 (18.8%), ビビッド6 (9.4%)
- ・色相について  
分布状況 : 2～8  
最大色相 : 4 (26.6%)
- ・トーンについて  
分布状況 : ビビッド, ブライト, ペール, ライト, ダーク  
最大トーン: ビビッド (68.8%)

色相は、赤、橙、黄に分布し、色相番号4は高い値(26.6%)を示している。またトーンは、主にビビッド、ブライト、ライト等の明清色調に分布し、全体の68.8%がビビッドに集中している。これらの結果から、1色の場合と同様に、色相は、赤よりも少し黄みを帯びた橙で、彩度が高く鮮やかな配色がより暖かさをイメージしやすいようである。

そして1色と2色配色との比較では、選択色彩は全く同じ傾向を示し、色相、トーンについても同様な傾向である。つまり2色配色になっても、色彩範囲の広がりほとんど変わらないようであり、「暖かい」からイメージされる色彩がほぼ固定化されていることを裏付けている。

## (2)「冷たい」

## ① 1 色 (単色)

- ・選択色彩 : ビビッド18 (28.1%), ディープ18 (12.5%), ビビッド17 (9.4%)
- ・色相について
  - 分布状況 : 2, 14~22
  - 最大色相 : 18 (53.1%)
- ・トーンについて
  - 分布状況 : ビビッド, ブライト, ペール, ライト, ライトグレイッシュ, ダル, グレイッシュ, ディープ, ダークグレイッシュ, メディアムグレイ
  - 最大トーン: ビビッド (43.8%)

色相は、主として青緑、青、青紫、紫に分布し、色相番号18は特に高い値 (53.1%) を示している。またトーンは、グレイを含めほぼ全体に分布し、全体の43.8%がビビッドである。これらの結果から、色相は青を中心とした寒色系に限られるが、トーンはビビッドを中心にしながらも広範囲にわたり、明らかに色相に依存する割合が高いことを裏付けているようである。

## ② 2 色配色

- ・選択色彩 : ホワイト (10.9%), ビビッド16 (9.4%), ビビッド18 (9.4%)
- ・色相について
  - 分布状況 : 14~22
  - 最大色相 : 16及び18 (28.1%)
- ・トーンについて
  - 分布状況 : ビビッド, ブライト, ペール, ライト, ダル, グレイッシュ, ディープ, ダーク, ダークグレイッシュ, ソフト, ホワイト, ライトグレイ, メディアムグレイ, ダークグレイ, ブラック
  - 最大トーン: ビビッド (31.3%)

色相は、主として青緑、青、青紫、紫に分布し、色相番号16及び18は高い値 (28.1%) を示している。またトーンは、ホワイト、グレイ、ブラックを含め全体に分布し、全体の31.3%がビビッドである。これらは1色の場合と同様の結果であり、2色配色になっても大きな変化は見られない。

そして1色と2色配色との比較では、選択色彩で変化が見られる。いずれもビビッド18とその周辺は含まれているが、2色配色においてホワイトが選択されている点である。またトーンにおいても、2色配色になると、トーンの範囲が全ての無彩色のトーンにまで広がっている。つまり、「冷たい」からイメージされる色彩 (特に配色) に、無彩色が影響を与えるということが明らかになった。

#### 4. 「軽い—重い」についての結果と考察

##### (1) 「軽い」

###### ① 1 色（単色）

・選択色彩 : ペール10 (28.1%), ペール8 (21.9%), ホワイト (9.4%)

・色相について

分布状況 : 2, 6~18

最大色相 : 10 (28.1%)

・トーンについて

分布状況 : ビビッド, ペール, ホワイト, ライトグレイ

最大トーン : ペール (84.4%)

色相は、赤、橙、黄、黄緑、緑、青緑、青に分布し、色相番号10は高い値 (28.1%) を示している。またトーンは、ビビッド、ペールの明清色調とホワイト、ライトグレイに分布し、全体の84.4%がペールである。これらの結果から、色相は、純色の明度が高い黄緑を中心にしても広範囲にわたり、トーンは、明度が高いペールに集中している。つまり、明らかに明度に依存する割合が高いことを裏付けているようである。

###### ② 2 色配色

・選択色彩 : ペール8 (17.2%), ペール10 (17.2%), ペール12 (14.1%)

ホワイト (14.1%)

・色相について

分布状況 : 2~16, 20

最大色相 : 8 (25.0%)

・トーンについて

分布状況 : ブライト, ペール, ライト, ライトグレイッシュ, ホワイト, ライトグレイ

最大トーン : ペール (68.8%)

色相は、赤、橙、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫に分布し、色相番号8は高い値 (25.0%) を示している。またトーンは、ブライト、ペール、ライト等の明清色調とホワイト、ライトグレイに分布し、全体の68.8%がペールである。これらの結果から、色相は、1 色の場合よりも純色の明度が高い黄を中心にしても分布範囲は広がり、トーンは、1 色の場合と同様にペールに集中している。

そして1 色と2 色配色との比較では、選択色彩は同様の傾向を示し、色相、トーンについてもほぼ同様の傾向である。これは、2 色配色になっても、「軽い」からイメージされる色彩がほぼ固定化されていることを裏付けているようである。ただ、明度に依存する割合が高いとされるが、色相についても、純色の明度の高い色相が選択されている点も明らかになった。

## (2)「重い」

## ① 1 色 (単色)

- ・選択色彩 : ダークグレイッシュ18 (15.6%), ダークグレイッシュ22 (15.6%),  
ダークグレイッシュ20 (9.4%), ブラック (9.4%)
- ・色相について  
分布状況 : 2, 4, 8, 14~24  
最大色相 : 18及び22 (18.8%)
- ・トーンについて  
分布状況 : ダークグレイッシュ, ダーク, ディープ, グレイッシュ, ダークグレイ,  
ブラック  
最大トーン: ダークグレイッシュ (65.6%)

色相は、ほぼ全色相に分布し、色相番号18及び22は高い値 (18.8%) を示している。またトーンは、ディープ, ダーク, ダークグレイッシュの暗清色調及びダークグレイ, ブラックに分布し、全体の65.6%がダークグレイッシュである。これらの結果から、色相は、純色の明度が低い青及び紫を中心にしながらも、ほぼ全色相にわたり、トーンは、明度が低いダークグレイッシュに集中している。つまり「軽い」同様に、明度に依存する割合が高いことを裏付けているようである。

## ② 2 色配色

- ・選択色彩 : ダークグレイッシュ18 (10.9%), ダークグレイッシュ16 (7.8%),  
ダークグレイッシュ20 (7.8%), ダーク18 (7.8%), ブラック (7.8%)
- ・色相について  
分布状況 : 2~24  
最大色相 : 18 (21.9%)
- ・トーンについて  
分布状況 : ダークグレイッシュ, ダーク, グレイッシュ, メディアムグレイ,  
ダークグレイ, ブラック  
最大トーン: ダークグレイッシュ (57.8%)

色相は、全色相に分布し、色相番号18は高い値 (21.9%) を示している。またトーンは、ダーク, ダークグレイッシュの暗清色調及びグレイッシュの中間色調, メディアムグレイ, ダークグレイ, ブラックに分布し、全体の57.8%がダークグレイッシュである。これらの結果から、色相は、純色の明度が低い青を中心にしながらも、全色相にわたり、トーンは、1 色の場合と同様に、ダークグレイッシュに集中している。

そして1 色と2 色配色との比較では、選択色彩は、ほぼ同様の傾向であるが、1 色の場合の方が、やや色相が紫系に傾いている。色相、トーンについては、ほぼ同様の傾向である。これは、2 色配色になっても、「重い」からイメージされる色彩が、ほぼ固定化されていることが裏付けられてい

るようである。ただ、明度に依存する割合が高いとされるが、色相についても純色の明の低い色相が選択されている点も明らかになった。

## 5. 「派手な—地味な」についての結果と考察

### (1) 「派手な」

#### ① 1 色（単色）

- ・ 選択色彩 : ビビッド 2 (46.9%), ビビッド 8 (12.5%), ビビッド 1 (6.3%),  
ビビッド 4 (6.3%), ブライト 2 (6.3%)
- ・ 色相について  
分布状況 : 1 ~ 5, 8, 11, 21 ~ 23  
最大色相 : 2 (56.3%)
- ・ トーンについて  
分布状況 : ビビッド, ブライト, ライト, ディープ  
最大トーン : ビビッド (87.5%)

色相は、赤、橙、黄、黄緑、緑、紫、赤紫に分布し、色相番号 2 は特に高い値 (56.3%) を示している。またトーンは、ビビッド、ブライト、ライトの明清色調を中心に分布し、全体の 87.5% がビビッドである。これらの結果から、色相は、青を除いた広範囲に分布しているが赤への集中度が高く、トーンは、彩度が高いビビッドへ集中している。つまり、明らかに彩度に依存する割合が高いことを裏付けているようである。

#### ② 2 色配色

- ・ 選択色彩 : ビビッド 8 (20.3%), ビビッド 2 (17.2%), ビビッド 1 (9.4%)
- ・ 色相について  
分布状況 : 1 ~ 12, 18, 19, 22 ~ 24  
最大色相 : 8 (23.4%)
- ・ トーンについて  
分布状況 : ビビッド, ブライト, ソフト  
最大トーン : ビビッド (93.4%)

色相は、ほぼ全色相に分布し、色相番号 8 は高い値 (23.4%) を示している。またトーンは、ビビッド、ブライト、ソフトに分布し、全体の 93.4% がビビッドである。これらの結果から、色相は、青緑を除いた広範囲に分布しているが、黄への集中度がやや高く、トーンは、1 色の場合と同様にビビッドへ集中している。

そして 1 色と 2 色配色との比較では、選択色彩は同様の傾向である。色相、トーンについてもほぼ同様であるが、色相において 1 色では青が、2 色配色では青緑がそれぞれ除かれていること、またトーンの分布において、2 色配色になった時にその範囲が狭くなっていることが、注目される点としてあげられる。

## (2)「地味な」

## ① 1 色 (単色)

- ・選択色彩 : ダーク 8 (15.6%), グレイッシュ 8 (9.4%),  
ライトグレイッシュ 8 (9.4%), グレイッシュ 10 (9.4%)
- ・色相について  
分布状況 : 2~10, 14~18, 22, 24  
最大色相 : 8 (34.4%)
- ・トーンについて  
分布状況 : グレイッシュ, ダーク, ダークグレイッシュ, ライトグレイッシュ,  
ライトグレイ  
最大トーン: グレイッシュ (40.6%)

色相は、ほぼ全色相に分布し、色相番号 8 は高い値 (34.4%) を示している。またトーンは、グレイッシュ, ライトグレイッシュ等の中間色調を中心に、ダーク, ダークグレイッシュに分布し、全体の 40.6% がグレイッシュである。これらの結果から、色相は、黄を中心としながらも広範囲にわたり、トーンは、中明度で低彩度のグレイッシュに集中している。つまり、明らかに彩度に依存する割合が高いことを裏付けているようである。

## ② 2 色配色

- ・選択色彩 : ダーク 10 (10.9%), グレイッシュ 10 (9.4%), グレイッシュ 8 (7.8%)
- ・色相について  
分布状況 : 2~24  
最大色相 : 10 (21.9%)
- ・トーンについて  
分布状況 : グレイッシュ, ダーク, ダークグレイッシュ, ライトグレイッシュ, ダル,  
メディアムグレイ, ダークグレイ  
最大トーン: グレイッシュ (39.1%)

色相は、全色相に分布し、色相番号 10 は高い値 (21.9%) を示している。またトーンは、グレイッシュ, ライトグレイッシュ, ダル等の中間色調を中心に、ダーク, ダークグレイッシュ, メディアムグレイ, ダークグレイに分布し全体の 39.1% がグレイッシュである。これらの結果から、色相は広範囲にわたり、トーンは 1 色の場合と同様に、中明度で低彩度のグレイッシュに集中している。

そして 1 色と 2 色配色との比較では、選択色彩は、ほぼ同様の傾向である。色相, トーンについてもほぼ同様であるが、色相, トーンいずれにおいても 2 色配色になると、その分布範囲に広がりが見られる。



## 6. おわりに

色彩認知イメージの中の「暖かい—冷たい」, 「軽い—重い」, 「派手な—地味な」の3つのイメージにおいて、選択される色彩（1色と2色配色）の傾向について調査した結果、次のような注目すべき点が明らかになった。

### (1) 「暖かい—冷たい」

- ・「暖かい」からイメージされる色彩について、色相は赤よりも少し黄みを帯びた橙、トーンは彩度の高いビビッドトーンであり、1色の場合と2色配色の場合で選択される色彩範囲の広がり、ほとんど変わらない。
- ・「冷たい」からイメージされる色彩について、選択色彩において、2色配色では青系以外にホワイトが選択されている点、またトーンにも無彩色が選択されている点などから、無彩色に冷たさをイメージさせる何らかの要素が存在している。

### (2) 「軽い—重い」

- ・「軽い—重い」からイメージされる色彩について、いずれも色相は広範囲にわたるが、純色の明度に大きく左右される。また1色の場合と2色配色の場合で、選択される色彩範囲の広がり、ほとんど変わらない。

### (3) 「派手な—地味な」

- ・「派手な」からイメージされる色彩について、色相は赤系で、トーンはビビッドトーンである。また2色配色の場合の方が、トーンの分布範囲は狭くなる。
- ・「地味な」からイメージされる色彩について、色相は黄及び黄緑で、トーンはグレイッシュトーンである。また2色配色になると、色相、トーンともに分布範囲は広がる。

本研究は、色彩認知イメージについて、選択される色彩に関する調査結果である。それぞれのイメージごとに、1色及び2色配色で選択される色彩傾向を明らかにすることができた。今後は、本研究で明らかになった注目すべき点をもとに、具体的な造形表現を通して、色彩イメージの効果的な活用方法について考察を深めていきたいと考えている。

## 参考文献

- 岡部慶三監修，社団法人日本流行色協会編，『色のイメージ事典』，（株）同朋舎出版，1991  
財団法人日本色彩研究所監修，『カラー&ライフ』，日本色研事業株式会社，2004